

## ☆支援活動

### 【専門家と取り組む支援から見えるポイント】

埼玉県スクールソーシャルワーカー（教育支援員）黒須文夫先生の特別支援学校における教務実績と、放課後等デイサービスの実務体験から捉えたレポートです。

今後の参考にして頂ければと思います。

## ☆保護者の願い

### 【他の人と関われるようになりたい！】

健全なお子様や大人が他の人とかわる際は、先ず言葉でのやり取りが中心となります。例えば、「こんにちは」とか「はじめまして」、「よろしくお願ひします」等々。

他の人との関わりの第一歩は、挨拶のやりとりだと思います。

そのため学校では、小学校や中学校ばかりでなく特別支援学級や特別支援学校も挨拶の指導を大切にしています。

しかし障害のあるお子様は、言語障害で発声がうまくできなかつたり、知的障害のために言葉が上手に言えなかつたり、情緒障害のために人との関わり方が苦手だつたり、様々な困難をかかえています。

そのため特別支援学校（特別支援学級）では、お子様の障害の程度や状態に応じた一人一人の挨拶の方法を考えて指導を行っています。

登校から下校までの一日の学校生活の様々な場面で、お子様達への挨拶の指導がなされています。「おはようございます」とはつきり言えなくて

「おーはーす」と言った場合でも、声に出して言えたことを評価して受け止めてあげる姿勢が、教員にとってとても大切なことだと思います。

場面緘黙のお子様には、挨拶の声かけと同時に、笑顔で握手をしたり、手を振つたり、頭を下げたりするなど言葉に代わる色々な方法があります。

このようにお子様の障害の種類や程度、年齢に応じていろいろな挨拶の方法を考えて、毎日毎日指導していくことが、その方法を身につけることにつながります。

他の人と挨拶する力が育っていくと、身近な友達や先生ばかりでなく、外出した時に、初対面の人と挨拶することもできるようになります。

他の人から挨拶された時に、お子様自身から挨拶を返すことができれば、とても自信につながります。

挨拶はコミュニケーションの基本だと思います。お子様が挨拶する力を身につけることができれば、人とのコミュニケーションの輪がどんどん広がります。障害のあるお子様が、自分から笑顔で挨拶ができるよう、未来サポートでは、これからも継続した支援に取り組んでいきたいと考えています。

